



しおかぜ



仙台市大会に参加

5月3日(木)憲法記念日)に仙台市大会が開催されました。仙台杜都道院の拳士も参加しましたが、入賞には至りませんでした。

もう少し、大会に力を入れなければいけないと反省する大会となりました。10月21日の宮城県大会に向け頑張りましょう。



開祖デーで特別養護老人ホームに

少林寺拳法では、毎年5月を宗道臣デーとした「社会貢献活動」を行っております。当道院では、道院設立当初より特別養護老人ホームへの訪問を継続しています。

今年も、5月13日(日)母の日)に塩竈市内の特別養護老人ホーム「清楽苑」を訪れました。年少拳士の演武を披露した後、参加いただいた拳士が、思いおもいに、「おじいちゃん、おばあちゃん」と「ふうせんバレー」や「折り紙」・「絵本」・「紙芝居」等で交流しました。清楽苑の皆さん楽しい時間をありがとうございました。

道場に戻り昼食を食べ、午後は、入門式と特別稽古で心地よい汗を流しました。参加いただいた拳士の皆さん、お疲れ様でした。

宗由貴 総裁メッセージ

2018年5月9日発信

生きる上で大切な節目に少林寺拳法が繋がりたい思い

インドネシアのジャカルタで行われた、イスラムの結婚披露セレプションに出席する機会がありました。本来ならば結婚式にも出席するはずだったのですが、前日に羽田を離陸するはずの飛行機が機材トラブルで16時間も遅れて真夜中に飛び立つこととなり、式には間に合いませんでした。



到着してから3日ほど前から行われているという結婚式に関わる家族や親族での儀式など、いろいろと聴かせていただき改めて今の日本の現状を憂うこととなりました。

世界中には七千から八千ともいわれる数多くの宗教がありますが、何であれ宗教が与える人への影響は計り知れないと感じます。どちらかといえばカルト的洗脳やテロなど、悪い影響はよく取り沙汰されますが、人として生きる指針や、そのための心のあり方を教える良い影響はなかなか

ユースにはなりません。ジャカルタで行われた結婚式の前日には、新郎新婦がそれぞれの実家において両親に感謝の気持ちを表すために両親の足を洗う儀式が執り行われるそうです。そうやって感謝の気持ちを表すのだといいます。そして、花嫁は親族の中の最高齢の女性から、「結婚」ということについていろいろと教わるのだそうです。

日本ほど宗教に寛容な国はないといわれます。ほとんどの場合、冠婚葬祭を含め地域の文化習慣としての意味合いが濃く、「個」



2018.05.13 清楽苑で

今後の予定

- ◎6月10日(日) 09:00から 宮城武専(青葉区体育館)
- ◎6月22日(金) 18:00から 塩竈教区 昇級試験・僧階取得の為の勉強会(塩竈道院専有道場)
- ◎7月 1日(日) 09:00から 宮城武専・昇格考試(青葉区体育館)
- ◎7月27日(金) 18:00から 塩竈教区 昇級試験・僧階取得の為の勉強会(塩竈道院専有道場)

の文化が進行する日本においてはするもしないも自由と、だんだんとフリースタイル化してしまいました。これは、若い世代の変化だけではありません。超高齢社会の今、子供や孫に負担をかけられないという理由から、普段の生活も距離を置き、墓じまいをしたり親戚付き合いも簡素化したりと、親から子に大切なことが伝えられない社会となつて来たように感じます。

今月13日は母の日です。お母さんのいない人はいません。お元気な方もいればすでに彼の国に旅立った方もいるでしょう。自分を生み、育ててくれたことに感謝し、そのお母さんが喜ぶ顔が見たい！それが自分の幸せと感じられる瞬間です。私の母は5年前に亡くなりました。母の日には毎年カーネーションではなく、母の好きだったトルコ桔梗を飾ります。それがお花でも、食べ物でも何でも、親の好きなものを知っているということが、幸せに思えるのです。好きなものだけではなく、「これをしたなら怒られるよね」という教えも同じです。

子供が生まれたときの宮詣りや、元気に育つたことに感謝し奉告御加護祈請する七五三。立志式や成人式。結婚式や初めて親になったとき。家族や親族が集まり同じときを生きていることを実感したり、喜び合ったりすること。とても必要なことではないでしょうか。長寿社会の日本です。還暦

(60)・古希(70)・喜寿(77)・傘寿(80)・米寿(88)・卒寿(90)・白寿(99)・紀寿(100)・茶寿(108)・皇寿(111)と、素敵な集まりのチャンスはたくさんあります。たとえ家族が集まれなくても、共に過ごす仲間がいることは幸せなことです。

少林寺拳法は、そんな人として生きる上で大切な節目に、生命の大切さや自分の可能性を信じることで、その可能性を育てるために必要な仲間づくりを通して、生きる力を次世代に繋げて行きたいと思えます。

中国古典 紹介

今月は、「君子は豹変す」を掲載『詩経』

初めは「賛成！」と言っておきながら、何らかの事情で……たとえば金などつかまされてコロリと態度を変え、こんどは一転「反対！」と叫ぶ。現在は、これを称して「君子豹変」という。

このように、現代ではもっぱら悪い意味で使われているが、本来の意味はそうではなかった。変化することには変わりはないが、良い方向に変化するのである。

豹の皮は、美しい模様をなしている。そういう美しい方向に変化することが「豹変」である。つまり、今までの自分から脱皮して新しい自分を創造することを言う。進歩、向

上といつてもよい。

時代は常に変化する。変化にとり残されないためには、常に自分をリフレッシュし、創造的革新をはからなければならない。それが本来の「君子豹変」である。

「見ず転」のように、コロコロ態度を変える「豹変」ではなく、創造的革新のほうを心掛けたものだ。



2018.05.13 清楽苑で